

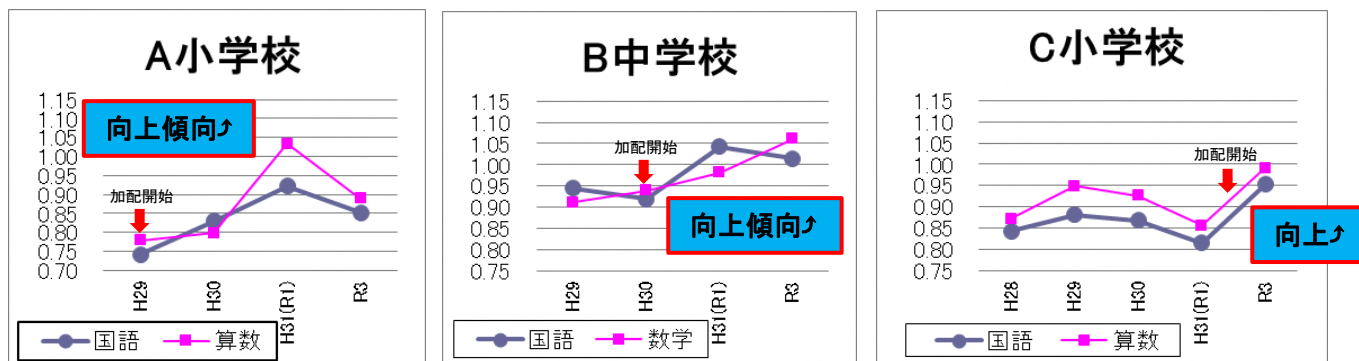
# 令和3年度全国学力・学習状況調査 研究校の成果等を踏まえた今後の取組み

資料1-2

## 研究校の成果等

本市においては、新たな学力向上プランのもと、誰一人取り残さず、すべての児童生徒の確かな学びを保障するために、組織的な研究体制のもと行う「授業改善の推進」・「自学自習力の育成」を2本柱として、9年間を見通した取組みを推進し、学力向上に向けた取組みを進めているところである。

学力向上において最も重要である組織的な研究体制を整えるために府の加配を活用し、学校の学力向上にかかるコーディネート役とする教員を研究校に配置してきた。研究校では、加配教員を配置することで、学校での学力向上に向けた取組みが加配教員を中心に学校全体でより組織的に進められるとともに、その効果的な取組みについても市内全校へ発信できており、研究校の取組みは全校へ着実に広がっている（小さな研究授業、家庭学習週間、プリントバイキング等の取組み）。さらに、研究校での学力向上への取組みの成果は児童生徒の学力の結果にも着実に繋がっており、平成29年度からの研究校（A小学校）、平成30年度からの研究校（B中学校）、令和2年度からの研究校（C小学校）では、全国学力・学習状況調査の結果（全国を1とした比較）において配置後の結果が向上している。（下図参照）。



## 成果等を踏まえた今後の方向性

### 『守口市学力向上プラン』（令和3～5年度）を着実に推進

☆ 9年間を見通した、組織的な研究体制のもと行う「授業改善の推進」「自学自習力の育成」の2本柱の取組みの更なる推進

⇒ICT 機器も効果的に活用し、児童生徒の確かな学びを保障する

⇒研究校の取組みを中心に市内へ好事例を波及させ、市内全体の学力のさらなる向上をめざす